

スコアシート		実施設計段階									
配慮項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体	
Q 建築物の環境品質										2.7	
Q1 室内環境							0.40		-	3.2	
1	音環境					-	0.15	3.3	1.00	3.3	
	1.1 室内騒音レベル			—		-	-	3.0	0.50		
	1.2 遮音					-	-	3.6	0.50		
	1	開口部遮音性能		開口部遮音性能:T-2以上。		-	-	5.0	0.30		
	2	界壁遮音性能		—		-	-	3.0	0.30		
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		-	-	3.0	0.20		
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)		—		-	-	3.0	0.20		
	1.3 吸音			—		-	-	-	-		
2	温熱環境					-	0.35	2.7	1.00	2.7	
	2.1 室温制御			—		-	-	3.3	0.50		
	1	室温		日本住宅性能表示基準「5—1断熱等性能等級」における等級4相当である。		-	-	3.0	0.63		
	2	外皮性能				-	-	4.0	0.38		
	3	ゾーン別制御性				-	-	-	-		
	2.2 湿度制御			—		-	-	1.0	0.20		
	2.3 空調方式			—		-	-	3.0	0.30		
3	光・視環境					3.0	0.25	3.4	1.00	3.3	
	3.1 昼光利用					3.0	1.00	3.4	0.30		
	1	昼光率		2.0% ≤ [昼光率]。		-	-	5.0	0.50		
	2	方位別開口		—		-	-	1.0	0.30		
	3	昼光利用設備		—		3.0	1.00	3.0	0.20		
	3.2 グレア対策					-	-	4.0	0.30		
	1	昼光制御		庇とカーテンレールを組み合わせることで制御。		-	-	4.0	1.00		
	3.3 照度			—		-	-	3.0	0.15		
	3.4 照明制御			—		-	-	3.0	0.25		
4	空気質環境					-	0.25	3.6	1.00	3.6	
	4.1 発生源対策					-	-	4.0	0.63		
	1	化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。		-	-	4.0	1.00		
	4.2 換気					-	-	3.0	0.38		
	1	換気量		—		-	-	3.0	0.33		
	2	自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/6以上。		-	-	5.0	0.33		
	3	取り入れ外気への配慮		—		-	-	1.0	0.33		
	4.3 運用管理					-	-	-	-		
	1	CO ₂ の監視		—		-	-	-	-		
	2	喫煙の制御		—		-	-	-	-		
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.0	
1	機能性					2.2	0.40	3.2	1.00	3.0	
	1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	4.0	0.60		
	1	広さ・収納性		—		-	-	-	-		
	2	高度情報通信設備対応		各住戸に100Mbitクラスのプロードバンドが利用可能な環境が整備されていること。		-	-	4.0	1.00		
	3	バリアフリー計画		—		3.0	1.00	-	-		
	1.2 心理性・快適性					1.0	0.30	2.0	0.40		
	1	広さ感・景観		—		-	-	3.0	0.50		
	2	リフレッシュスペース		—		-	-	-	-		
	3	内装計画		—		1.0	1.00	1.0	0.50		
	1.3 維持管理					2.5	0.30	-	-		
	1	維持管理に配慮した設計		—		3.0	0.50	-	-		
	2	維持管理用機能の確保		—		2.0	0.50	-	-		
2	耐用性・信頼性					3.0	0.30	-	-	3.0	
	2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-		
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	-	-		
	2	免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20	-	-		
	2.2 部品・部材の耐用年数					3.2	0.30	-	-		
	1	躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	-	-		
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		—		2.0	0.20	-	-		
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-		
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-		
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VLP(B)、排水VP(B)、冷媒管(C)、Eは不利用。		5.0	0.20	-	-		
	6	主要設備機器の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-		
	2.4 信頼性					3.0	0.20	-	-		
	1	空調・換気設備		—		3.0	0.20	-	-		
	2	給排水・衛生設備		—		2.0	0.20	-	-		
	3	電気設備		—		3.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法		耐震クラスA。		4.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備		—		3.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性			3.4	0.30	3.1	1.00	3.1
	3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50	
	1	階高のゆとり	階高:2.9m以上、3.0m未満。	-	-	4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	—	-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		—	-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.4	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	電気配線は空配管内に設置されます。	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	通信配線は空配管内に設置されます。	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	1.7
1	生物環境の保全と創出		—	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	1.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.0
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.2
1	建物外皮の熱負荷抑制		日本住宅性能表示基準「5—1断熱等性能等級」における等級4相当である。	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用		—	2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化		BEI=0.98。	3.2	0.50	-	-	3.2
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	2.9
1	水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1	節水	—	1.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
	2.1	材料使用量の削減	—	2.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	断熱材。	3.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	「躯体＋軽鉄＋仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能。	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮		—	3.0	0.33	-	-	3.0
2	地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	污水处理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす。また、広告物照明は行っていない。	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	－	－	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	3.0		－	－	－	－	○	－	－	○	－	○	－	－	－
2.4.1 空調・換気設備	－		○	－	－	－	－								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	－	－	－	－	－	－						
2.4.3 電気設備	1.0	－	－	－	－	○	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	－	○	－	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	2.0		－	－	1.0	－	1.0	－	－	－	－	－	－		
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		－	1.0	－	－	－	－							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	－		－	－	－	－	－	－	－	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		－	1.0	－	1.0	－	－	－	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	－		－	－	－										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	－	－	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	－	－	1.0	1.0	－	－	1.0	3.0	－			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	－	1.0	－	－	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		－	1.0	－	－		－	－						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)			
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH	
昼光率	4.0%				
自然換気有効開口面積率	28.5%				

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡					
天井高	0 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	2.91 m					
壁長さ比率	0.0%					
床荷重	－ N/m2					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数		19%		建物緑化指数		0%	
空地率	57%	水平投影面積率	5%	地表面対策面積率	13%	舗装面積率	51%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	対象外	断熱等性能等級	等級4 相当				
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%		
		通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%		
BPI/BPI _m	非住宅	－	住宅	－	太陽光 .0kW	太陽熱等 .0kW	蓄電池 .0kW

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%				
特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%				
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)			
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3		
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)			

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		215% 隣棟間隔指標Rw 0.36																	
地表面対策面積率		22.0%		屋根面对策面積率		0.0%		外壁面对策面積率		0.0%									
見付面積Sb		1,513㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		47.4 m		基準高さHb		14.84 m									
緑地		49㎡		水面		㎡		保水性対策面		㎡		高反射対策面		㎡		再帰性反射対策面		㎡	